

多
1.242
2-



十句花月帖

地

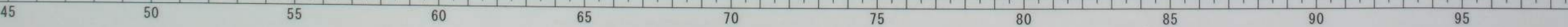
春草堂雅玩



前度尋春花已闌
 今來暖雪照人顏
 十
 年
 纔補平生缺
 在
 吾重遊芳楚山
 花
 夜
 東
 風
 到
 處
 飛
 芳
 山
 萬
 林
 正
 芳
 苑
 相
 與
 昔
 底
 進
 杯
 酒
 數
 片
 斑
 來
 點
 衣
 倚
 興
 不
 及
 步
 遲
 當
 話
 花
 香
 今
 別
 離
 也
 已
 七
 旬
 兒
 生
 百
 丈
 山
 香
 到
 空
 何
 時



疊春山別有天
 花開花落鎮依然
 羊腸險惡君任怒
 曾渡南朝五十年
 第三句 初正可憐千林香雪暖
 或疑花可憐
 誰識乎故奴
 字義
 字義
 字義



都れ花をひそのりてはひそ
きやもやわらわしきももも
そののしはまはひれさあは
ふそののむさしはひれさあ
なるるれさしよふきさあ

いれぬふふふふふ
わささささささささ

きやもやわらわしきももも
そののしはまはひれさあは
ふそののむさしはひれさあ
なるるれさしよふきさあ



芳塾山意
試寫其旅
館燈底醉
眼盼餘佳
覽憤也然
渡芳塾河入
山時煙雨空
濛不見如此
不唯余筆
墨不淨也
兼



田合岡密煙不孤蒸輝 煌金碧廟府
層風雲一體君臣業涉海誰語

天智陵

草莽巨兼



いれぬふふふふふ
わささささささささ

惟之

芳川北度歷羊腸多武峯東千仞岡

不唯余筆
墨不淨也
表



田合周密 煙不孤 蒸輝 煌金碧 廊房
層風雲一體 君臣業 涉海誰語
天智陵

草莽巨兼



うらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か
惟ふ

芳川北度 歷羊腸 多武峯 東千仞岡
背指皇圖 紅霧際 分明高閣 認藏王

芳野歸路 某山上作此



まふくやふたふいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

初瀬の川のうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

いふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

まふくやふたふいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

大さ北極の友ていふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

物部の池にわらうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

まふくやふたふいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

西浦のうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

山に折るをいぬとわらうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

いふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か
まふくやふたふいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

折るもたふいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

玉川にわらうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

雨にうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

花をいふうらやまのたふもいふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

いふ山あはれをけりてそねくやくとた月夜か

山に松を想ひぬと書きたる
後

折るもたたりくもたれども
玉川山にありてあり

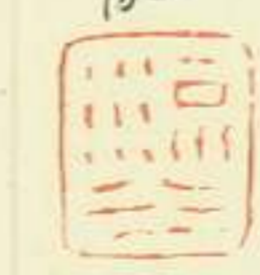
雨にうらみたるも
花はよとやうも
ゆきよとやうも

山ありてのりてありてあり

日と月と
川と山と

探討の方路未だ
紅紫の雲を及ばぬ道
萬物皆

攀汲度橋初紅印
前望萬朵紅雲又一峯
追録芳樹作
官原龍



過南都船名寺感大塔觀王事心之足
丹青刻落榜題存猶憶正秋
應者雲子色眩迷尚昭護龍
願日香和元沙拚多如貝錦
畢竟乾坤宮土寇徑函無是
地害靈醒教日付刀賊年
十餘州鐵大錯如形亦不成

表末定稿

過湊川憶石井七郎事作此
七郎名孝忠今安藝故國府田所氏族祖也
家前勅書二通

備後三郎世稱揚誰知安藝有七郎奉
恩光廟謨不嘉賊再起一敗不困湊川水
一忠鬼 田所家譜云孝忠同補正成戰死于湊川墓在川側今失所在
此詩曾刊于浪華波取禰之上今以類近錄于此



閑枕弟毛寫
歎豈可憐
帶風香綺散
帷与任半絲散
望空相第久長
丁亥春香亭寫

香坪先生
陽



一忠鬼 田所家譜云孝忠同補正或戰死于湊川墓在川側今失所在
 此詩當列于浪華被取弼之上今以類追錄于此 兼

閑托弟之寫
 歎堂可憐其
 帶風香綺散
 惟与任半絲散
 望空指弟之長
 丁亥春孝忠寫
 併解在呈
 杏坪先生正
 陽



一瞬韶華已化塵
 林深寂寞少遊人
 知恩猶有晚花好
 滿院香風盡尾香

此詩當列于浪華被取弼之上今以類追錄于此
 兼

問花芳世寄
 待盡十日仙
 仙版
 乘餘與文
 雨山周雨
 不思院
 程芳

古書

此詩當列于浪華被取弼之上今以類追錄于此

此詩當列于浪華被取弼之上今以類追錄于此
 兼

春風南過... 丁亥春孝陪... 春風南過... 丁亥春孝陪... 春風南過... 丁亥春孝陪...

平野のあさくらをよめる

わらわしうそ... 見あはれ月... 見あはれ月...

東山西峽散紅軍平野程張成

隊雲お是... 拙書送在矣

花枝... 三月廿一日

義頂嵐山... 慶平野... 龍

三月五日

直に... 直に...

之... 之...

源... 源...

之... 之...

東山... 東山...

三月五日と彰六人親野

直に花のうらみき色もあつてや

うらみき色もあつてや 鴨の川水 東東

鴨の川水

鴨の川水

春の禁内相月又同跡芳向鴨家畢竟情去
春の跡落是海外一川風

鴨の川水送春時は要証信床可移一樹分
明如結夕仰故立証跡枝

華堂

同くは花の内をわらう跡のこころのあらわく

心は花のこころをわらう跡のこころのあらわく

心は花のこころをわらう跡のこころのあらわく

心は花のこころをわらう跡のこころのあらわく

心は花のこころをわらう跡のこころのあらわく

卯月替り

卯月替り

卯月替り

卯月替り

鈴鹿豊後守宅當座探題倭歌

惟成

花照狐燈

代身惜花

花間柳絮

花間舞蝶

花間遊蜂

花間遊蜂

瀧原宋問翁宅

おのゝりりりりり

鈴鹿豊後守宅當座探題倭歌

恒宗

花照孤燈 赤松のまはりにけはまの夜ふれりや思ふとくひのむ

代身惜花 ちよきんそのくしきふくふれをこれぞとせ花の一時

花間柳絮 吹んよやそのもまらぬをせけらふゆゑ川をひの道

花間舞蝶 ありまふ蝶のあらぬまんよちりや花とてやいふ身

花間遊蜂 花よりくきふれりや舞のつすふまけを歌いしかな

瀧原宋間翁宅

卯花處、いへくまの月夜をまてりや卯のむけのまの山陰

鈴鹿氏のついで

休月夜花 宿てとりのいと夜はあまふくしおのく月と花とをさ

松乃花也 松乃花舞とまらぬをさるるなほ松とて思ふと花は

瀧原氏此はと

折印茶 ちりまは茶をさるる計はねるるをさるる

風流儒雅古先登八萬親兵天獨能名節

詩仙堂



誰知扶世教一堂風月托殘僧

都る政を力をもとらけりや石川や鯉の

小川 瀬をけりや石川や鯉の

志賀越 少事 抄はそは、しよき七

とらふ、いさくらふ、いりよき、の、しよき

おやもも 老の波るる 志賀乃山をこへ越りよるる

裏論此歌は香川長門介の正島介曰志賀乃山以下天然語勢使貫之勢恒視之不能揺動一字以上二句不成秋詞為改曰たらちま乃老とて打たれ則可痛矣如原他則是田舎海母子並面敵者佞偽を撃つ可醜以鳥則梅隠夫人也損不成也介談論風生人、厭心毎此類也

湖田麥秀菜花黃偶問舊都遊樂
浪空淺周公針希位華山屋處布

成王

附

天下無雙一老松太湖低飲百頭龍有靈如使
鹿 皇統不廢正宗滿賀宮 幸野松下作

膳所城東投宿與村管次湖亭賦此為謝

十八年前湖上秋醉題留去百宜樓 樓在石場 扁余所書 百宜不若茲

亭好况復團欒月下進

任裏奉母 挈家而從



不從搖動一字以上三句不成秋詞為改曰杜少陵乃大... 如原他別是田舍漢母子並面歎者何備古學可醜以鳥則樹... 子成也介徒淪凡生人、厥心每此類也

湖田麥秀菜花黃
偶問舊都邊樂
浪空淺周公行
帝位華山底處布

成王

附 天下無雙一老松太湖低飲百頭龍有靈如使
庇 皇統不廢正宗滋賀官 辛卯松下作

膳所城東投宿與村管次湖亭賦此為謝

十八年前湖上秋醉題留去百宜樓 樓在石場 扁余所書 百宜不若茲

亭好况復團欒月下進 佳襄奉母 挈家而從

洞流決、鳥羽低山奔、正人、家曲、齋不似、是、其、以、法、匪、牛、逐、馬、
漁、新、派、身、如、系、逐、兵、整、家、及、先、如、婢、吟、嘯、穉、孫、自、載、籃、
與、素、露、面、與、宮、喚、阿、家、老、狂、笑、與、少、狂、行、能、和、傳、酒、其、
從、家、未、人、得、此、固、樂、樂、至、且、信、村、一、向、松、長、橋、可、續、映、遠、帆、
恒、自、久、創、誠、正、新、堂、款、回、謁、飲、紅、影、三、年、多、前、舊、河、成

庚子年

寫湖山晚晴圖

奉送

吉坪先生歸

竹洞山成昌

竹洞山成昌



四月既望色子成水西亭賦其事二首

主人何處去且生捲書帷綠水憐新漲青山

亦舊知漁陰宜似寐多景不暇待白晝君

歸、到、色、題、鷓、鴒、報、來

水亭人若醉昏黑思... 為... 好... 酒

四月既望色子成水西亭賦已事二首
主人何處去且生捲書帷保水憐新漲青山
亦舊知漁陰宜似寐多景不暇待也查君
歸到色題鷄報來

水亭人若醉昏黑遇 昔婦一童倒罇尊酒
同評短句待暮山浮暗綠明月湧清漪生無
應難再休言更相移

十日朝奉訪 古坪先生客舍

曉霧空激水西灣長橋隔柳聲聞飯罷放
寫美一事尋 君來看雨中山

丁亥首夏游京田邊伯表邀飲 大小賴先生於水門
亭余以是日歸故不能追陪伯表來示 二賴詩皆拙
你之次韻也再疊以奉酬 二首

非關携妓向東山詩酒同遊水一灣客不能從君莫訝
三偷行樂半旬間 無端掃棹隔江山微雨蓬窗夢獨閑
遙思爛醉扶人返五柳柴門是好灣

伯表惠磁印二顆木米惠磁盞二枚共自製管古可

愛賦謝



伯表所贈

青華磁印碧泥杯名手一時授我來能使水芳
石石幅難砂汝贈二三枚

伯表名憲詩畫風流在為東宇以面
木米陶工尤貴一世且善畫蓋其人非凡故所心也題玩



伯表所贈

一友分碧島河灣喚吟呼羨快看間芳晚難
忘人世味未能決絕住深山

柏葉亭竹魚於

如乃味翁不食公承碧与伴次至款我心為嘆
時余宜初於之志未決也

饒宗魯

手不幅難破汝情二三枚

伯表為憲詩畫風流在為東寺山面
木米陶工尤貴一世且善畫蓋其人非凡故所心也起統



伯表所贈

一
去分碧島河灣喚臉呼美換看間苦晚難
忘人世味未能決絕住深山

相葉亭竹魚於
如及味翁又念承碧与伴次至族我心為嘆
時余多病壯之志未決也

饒家
鑒

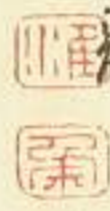
前渠若箭不成擊水近無聲却自悶
鱸膾滿盤蕪也羨不令遠客憶家山

杏坪聲雙

其水飲於東岸水門亭承粥連約江盈額二三
第三橋架水之灣橋時輪蹄不輟閑好事酒家門
巷邃條陰黃鳥印深山
日之亦向尔遠知元生蓬宮底忍淚之通第或亭

醉襄

水門亭在翠楊灣
正以間竹門排石
或居佳處山又登小竹約



水門亭杯酒間
化此 木米



邀 杏坪翁於弊廬賦此以示

驕三聯芳燦似霞春風併上筆
頭花誰言天地無私賦生得文宗
聚一家 丁亥孟夏會六

資愛



邀 杏坪翁於弊廬賦此以示

驕三聯芳燦似霞春風併上筆

頭花誰言天地無私賦生得文宗

聚一家 丁亥孟夏會六 資慶



日二尋芳烏角巾平安寧樂兩
京春花開苑落年千百真賞
如翁有幾人

讀帖中諸作得此短句

資慶又錄



日野亞相藤公賜宴賦詩限韻家任襄釋大會與為是夜雨

靜聽四欄琴筑聲 宮門夜雨少人行誰知忘貴延寒士

華燭醜顏相映明

豈料華堂容箇巾 溫一賜坐一團春替櫻林之方今盛

好士如公更幾人 後首次相公尊押 惟柔

按者 天南試雨 沔海潮長流聲 誰呼二

房百家林畫菊走筆 賦題

三句百勝阿戎家五斗田 吟去跡除不香東籬秋色

如嘉將醉墨寫黃花 義和知



古門

古門是家底 吟及山僧 宜不似休 活吟連

難小筆 信光 詔幅 一畫 的 方印大智



Handwritten calligraphy in cursive script, likely a copy of the text on the right page.

秋景何如夏景真
停車吟
多令人可憐
楓葉青千樹
不減
紛囂一燕塵
長府小田吉

秋景何如夏景真
停車吟
多令人可憐
楓葉青千樹
不減
紛囂一燕塵
長府小田吉

皇統相傳營梵宮
每秋雲畫表丹忠
又思今日子林綠
長使蒼生戴碧空
文覺遺蹤秋染松
人言怨火有
跡紅蓮
凡四月滿山
係看得上人空
色與
古坪
右四首遊高雄
同遊大念秋巖詩供
後詩第二句依曹子琴句

之體山之彩
松とらんまろりて
しりょうの
たをあらわす
鹿山の
くまを
てまはれ
木よるん
唐澤の
わたりは
ゆひに
す

作は皮の
くまを
てまはれ
木よるん
唐澤の
わたりは
ゆひに
す

穴山
竹村
あらう
やう
有
う
あ
い
し
は
な
と
か
て
ま
は
れ
ん
ま
ま
あ
ら
れ
那の
あ
ま
て

あまの
くまを
てまはれ
木よるん
唐澤の
わたりは
ゆひに
す

秋景何如夏景真
停車吟
多令人可憐
楓葉青千樹
不減
紛囂一燕塵
長府小田吉

秋景何如夏景真
停車吟
多令人可憐
楓葉青千樹
不減
紛囂一燕塵
長府小田吉

秋景何如夏景真
停車吟
多令人可憐
楓葉青千樹
不減
紛囂一燕塵
長府小田吉

部公朝の...
...
...

喜

...
...
...

保樹林中...
...
...

大智

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...

...

典藥頭福丹州一世良醫...
...
...

神京久着玉堂...
...
...

...

...

...

...

...



吾坪ゆゑきい乃双紙をこておもひかへしと
くらひんむいふたふん

よ一野ふらふら一人のいふふらん(らん)のいふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

もむらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
廣島乃てぬめりうばもむらふら(むら)ふらふらふらふらふらふらふらふら

寶愛

大島(大島)のいふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
白野(白野)のいふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ゆれ(ゆれ)やふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

ふらふら 梅鹿

